

災害リスク情報の利活用方法検討作業のアプローチ（案）について

本資料は、防災WGにて利活用方法の検討を行っていくに際し、その検討作業手順についての案（叩き台）を示したものである。
本案に関し、改善する点等について皆様のご意見を頂ければ幸いである。

1. 利活用方法検討作業の目標（案）

- ・ 災害リスク情報の利活用について、ターゲットとすべき利活用像（ユースケース）群を明らかにする。
- ・ ターゲットとする個々の利活用像（ユースケース）を実現していくために必要となる、機能要件項目を整理する。

2. 基本方策（案）

- ・ 最初に、事務局が用意する利活用方法検討作業の手順（案）を叩き台として、防災WGメンバ間で、電子メールを使って利活用方法検討の手順について意見交換・議論して頂き、利活用方法検討作業の手順を定めていく。
- ・ その手順に従って、防災WGメンバ間で、電子メールを使ってターゲットとすべき利活用像（ユースケース）群及びターゲットとする個々の利活用像（ユースケース）を実現していくために必要となる機能要件項目について意見交換・議論して頂き、それらを整理する。

次ページ以降に、利活用方法検討作業の手順（案）を示す。

次ページの 3.1 では、実現が望まれる利活用像についての具体的な提案を皆さんにお願いしています。

一般的な利活用方法に加えて、普通はなかなか思いつかないけれども、実現すれば役に立つと思われるものなど、少数意見的なものも大歓迎です。

提案の提出先や、締切りにつきましては、別の紙によりご案内します。

3. 利活用方法検討作業の手順（案）

図 3.1に、利活用方法検討作業の手順（案）を示す。

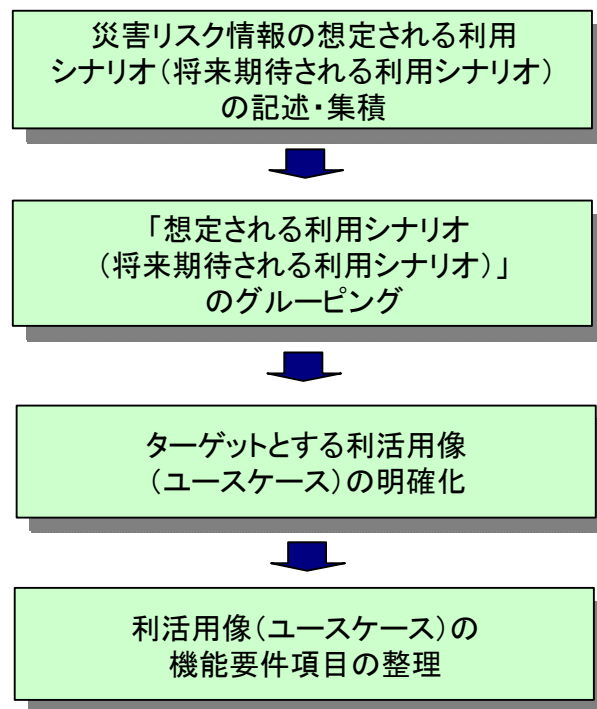


図 3.1 利活用方法検討作業の手順（案）

以下、上記図の流れにしたがって、利活用方法検討作業の手順について説明する。

3.1 災害リスク情報の想定される利用シナリオ（将来期待される利用シナリオ）の記述・集積

最初に、電子メールを利用して、防災WGメンバに、災害リスク情報の想定されるニーズ・利用方法に関して幅広いアイデアを出して頂く。この手段として、災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート（事務局原案作成）（別紙1の付表1参照）を利用する。防災WGメンバ（防災WGへの参加を申し込みされた際に、関心のあるテーマとして「利活用方法」にチェックされたメンバ等）は、当該シートに、災害リスク情報の想定される利用シナリオを記述頂き、事務局でそれらを集積する。

表 3.1は、「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート（案）」を構成する記述項目を示したものである。別紙1の付表1には、「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート」への具体的な記述サンプルを合わせて提示した。

表 3.1 「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート（案）」の構成

#	大項目	小項目	記述内容	備考
(1)	事例番号	—	—	最終的には、記述頂いた事例を集積する際の整理番号となる。
(2)	利用シナリオ事例（利用場面）	—	災害リスク情報の利用場面を記述する。	自由記述。ただし、調査シートに記述のサンプルを提示する。
(3)	災害リスク情報の利用者の種別（注）	—	災害リスク情報の利用場面における、災害リスク情報の利用者の分類（住民、企業、防災機関（自治体、省庁、重要インフラ機関等））を記述する。	あらかじめ、調査シートに分類表を添付する。
(4)	災害リスク情報の利用時期・タイミング（注）	—	災害リスク情報の利用場面における、災害リスク情報の利用時期・タイミング（平常時、警戒期、応急対応期、復旧時、復興期等）を記述する。	あらかじめ、調査シートに分類表を添付する。
(5)	災害リスク情報の利用目的	—	災害リスク情報の利用場面における、災害リスク情報の利用目的を記述する。	自由記述。ただし、調査シートに記述のサンプルを提示する。
(6)	利用したい災害リスク情報、利用形態等	対象とする自然災害（注）	災害リスク情報の利用場面における、対象とする自然災害（地震（火災を含む）、洪水、土砂災害、火山、津波）を記述する。	あらかじめ、調査シートに、分類表を添付する。
		利用したい災害リスク情報	災害リスク情報の利用場面における、利用したい災害リスク情報（自宅周辺のエリアのハザード・リスク情報、ハザード・モニタリング情報、避難注意報・警報等）を記述する。	自由記述。ただし、調査シートに記述のサンプルを提示する。
		情報の詳細度、粒度等（注）	災害リスク情報の利用場面における、情報の詳細度・粒度（個別建物レベル、町名・大字レベル、市区町村レベル等）を記述する。	あらかじめ、調査シートに、分類表を添付する。

#	大項目	小項目	記述内容	備考
		災害リスク情報を利用したい場所（注）	災害リスク情報の利用場面における、災害リスク情報を利用したい場所（自宅、オフィス、外出時等）を記述する。	あらかじめ、調査シートに、分類表を添付する
		利用したい情報端末（注）	災害リスク情報の利用場面における、利用したい情報端末を記述する。	あらかじめ、調査シートに、分類表を添付する
		災害リスク情報の閲覧・編集等に利用したい媒体（注）	災害リスク情報の利用場面における、災害リスク情報の閲覧・編集等に利用したい媒体を記述する。	あらかじめ、調査シートに、分類表を添付する。
(7)	想定される具体的な利用シナリオ	—	上記(2)～(6)の記述を踏まえて、情報の検索、取得、表示等のアクションに関して想定される具体的なシナリオを可能な範囲で記述する。	自由記述。ただし、調査シートに記述のためのサンプルを提示する。

(注) これらの項目は、「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート」に記述頂いた“利用シナリオ事例”を集積したものを、グルーピング・整理する際の参考指標として利用することを想定して設定した。

「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート」を使用した、災害リスク情報の想定される利用シナリオの記述・集積・更新は、以下のステップで行う。

- ① 事務局から、防災WGメンバに、「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート」(Excel ファイル：記述サンプル付) (別紙1の付表1) を電子メールにより送付させて頂く。
- ② 防災WGメンバには、別紙1に示す「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート」の記述ガイドラインに沿って、災害リスク情報のサービス利用者またはサービス提供者（あるいはその両方）の視点から、1つ以上の“利用シナリオ事例”について記述頂き、事務局に電子メールで送付頂く。
- ③ 事務局は、各防災WGメンバに記述頂いた“利用シナリオ事例”を、適宜、マスターの「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート（単一シート）」上に集積・更新し、それをメールで防災WGメンバに送付させて頂くとともに、「防災WGホームページ」にアップする。
- ④ 防災WGメンバには、電子メールで送付させて頂いた、シナリオが集積されたマスターの「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート」(「防災WGホームページ」からのダウンロードも可能) 上に、新たな利用シナリオ事例を追加頂くか、他のメンバが記載された利用シナリオ事例に対するコメント等

を記述頂き、事務局に電子メールで送付頂く。

- ⑤ 事務局は、適宜、④を反映したマスターの「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート」を電子メールで防災WGメンバに送付させて頂くとともに、「防災WGホームページ」にアップする。
- ⑥ 防災WGメンバ間で、マスターの「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート」上に蓄積された、想定される利用シナリオ事例を共有頂く。

3.2 「想定される利用シナリオ（将来期待される利用シナリオ）」のグルーピング

ターゲットとする利活用像（ユースケース）群を明確化するための準備として、「災害リスク情報の想定される利用シナリオの記述・集積」作業から得られる想定される利用シナリオ（将来期待される利用シナリオ）」を、災害リスク情報の利用目的やニーズ（利用したい情報）に関する類似性の観点で統合化・パターン化することにより、グルーピングする。

本作業は、電子メールでの意見交換を含め、利活用に関心の深い防災WGメンバと事務局を中心として実施する。

3.3 ターゲットとする利活用像（ユースケース）の明確化

「想定される利用シナリオ（将来期待される利用シナリオ）」のグルーピングに基づき、ターゲットとする利活用像（ユースケース）群を想定する。

ターゲットとする利活用像（ユースケース）群は、グルーピングした「想定される利用シナリオ（将来期待される利用シナリオ）」の各々に対して、情報サービス提供者の視点によるサービスの方向性、システム開発者の視点による実現可能性、必要とされる技術等との関連付けを行い、重要性、実効性、発展性等が高いものを複数想定する。また、想定した利活用像（ユースケース）別に、そのユースケース図¹及び実現イメージ（ユーザー、情報、システム等間の関係をポンチ絵で示したもの）を作成する。

本作業は、電子メールでの意見交換を含め、利活用に関心の深い防災WGメンバと事務局を中心として実施する。

3.4 利活用像（ユースケース）の機能要件項目の整理

利活用像（ユースケース）の機能要件定義に資することを目的として、利活用像（ユースケース）の機能要件項目を検討・整理する。

ターゲットとして想定した個々の利活用像（ユースケース）別に、それらを実現するためにどのような事項が関連するのかを分析・検討する。その分析結果から、災害リスク情報の統合利用の観点により、利活用像（ユースケース）の機能要件を構成する、あるいは、機能要件に影響を与える要素を抽出し、それらを、「利活用像（ユースケース）のサービスを実現するに当たって必要とされる機能要件項目」として整理する。

¹ システムが提供する機能やサービスを、システムの外部から見た利用者や別のシステムの視点で表現した図（出展：ASCII.jp デジタル用語辞典）。

本作業は、電子メールでの意見交換を含め、利活用に関心の深い防災WGメンバと事務局を中心として実施する。

「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート」の記述要領（案）

1. 項目別の記述方法

防災WGのメンバに、1つ以上の“利用シナリオ事例”を想定頂く。その際、付表1に示した「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート（案）」の記述サンプルを参照頂きながら、事例別に「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート」中の項目について記述頂く。

記述項目には、以下の2つのタイプがある。

(1) 分類表に基づく記述

「災害リスク情報の利用者」、「災害リスク情報の利用時期・タイミング」、「対象とする自然災害」、「情報の詳細度、粒度等」、「災害リスク情報の利用場所」、「災害リスク情報の閲覧・編集等に利用する仕組み・システム」については、事務局側でおのこの分類表（付表2～7）を提示させて頂くため、それに基づき記述頂く。

なお、これらの項目は、“想定される利用シナリオ事例”をグルーピング・整理する際の参考指標として利用することを想定して、設定した。

(2) 自由記述

「利用シナリオ事例（利用場面）」、「災害リスク情報の利用目的」、「利用したい災害リスク情報」、「想定される具体的な利用シナリオ」を記述して頂く。「災害リスク情報の利用目的」の記述に関しては、「災害リスク情報の利用者」等により、ある程度の定型化が可能と考えられるため、参考として、付表8に、利用者別の「災害リスク情報の利用目的」と対応する「利用したい災害リスク情報」の記述イメージの例を示した。

なお、「想定される利用シナリオ」については、文章もしくは図で記述頂いても良い。図で記述頂く場合には、別途事務局に、電子メールで図を記載したファイルを送付頂く。

2. シナリオ事例の追加、コメント等

防災WGの各メンバから「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート」に記述・送付頂いた“利用シナリオ事例”を、事務局側で、当該シートのマスター（単一シート）に集積し、適宜、電子メールで送付あるいは「防災WGホームページ」にアップする。

防災WGのメンバには、電子メールで別途送付させて頂く、エクセルの「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート」（「防災WGホームページ」からのダウンロードも可能）上に、新たな利用シナリオ事例を追加頂くか、他のメンバが記載された利用シナリオ事例に対するコメント等を記頂く。

当該シートのマスターに掲載されている、既存の事例に対して何らかのプロセスや

アイデアの追加を希望される場合には、当該シートの中で、その事例の下に、基となる情報をコピーした上で、別途新たな事例（たとえ非常に類似するものであっても）として追加頂く。一方、他のメンバが記述された既存の事例に対して何らかのコメントをされる場合には、当該シートのマスターにある「コメント」欄に記述頂く。

付表1 「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート(案)」(記述サンプル付)(1/2)

事例番号	利用シナリオ事例(利用場面) (以下は記述例)	災害リスク情報の最終利用者	災害リスク情報の利用時期・タイミング	災害リスク情報の利用目的 (以下は自由記述例)	利用したい災害リスク情報、利用形態等						想定される具体的な利用シナリオ (以下は自由記述例)	コメント等
					対象とする自然災害	利用したい災害リスク情報 (以下は自由記述例)	情報の詳細度、粒度等	災害リスク情報の利用場所	利用する情報端末	災害リスク情報の閲覧・編集等に利用する仕組み・システム		
					付表2「利用者の分類」を参照されたい	付表3「利用時期・タイミングの分類」を参照されたい	付表8「利用者別の“災害リスク情報の利用目的”と“利用したい災害リスク情報”の記述イメージの例(参考)」を参考にされたい	付表4「対象とする自然災害の分類」を参照されたい	付表8「利用者別の“災害リスク情報の利用目的”と“利用したい災害リスク情報”の記述イメージの例(参考)」を参考にされたい	付表5「情報の粒度・詳細度の分類」を参照されたい		
1	Web GISを利用して、自宅付近の洪水ハザード情報と洪水による自宅の浸水レベルに関する情報、ならびに、自宅付近の地震ハザードの大きさ、断層、液状化に関する情報及び地震による自宅の被害のレベルと被害額に関する情報を取得し、それらをマップ・航空写真上に表示する。	居住者	平常時	自助	洪水 地震	・自宅・自宅付近の洪水ハザードの大きさ ・想定される自宅の浸水のレベルと被害額 ・地域・自宅周辺の地震のハザードの大きさ、断層、液状化危険エリア等 ・想定される自宅の被害の大きさと被害額	個別建物レベル	自宅	PC	WebGIS	・ポータルサイトで地震・洪水ハザード及びリスク情報を閲覧したい自宅等の住所あるいは郵便番号を入力する。 ・WebGISが自動的に立ち上がり、閲覧したい場所付近のマップと航空写真が2画面で別々に表示される(マップと航空写真の重ね書き表示、マップ単体表示、航空写真単体表示も可能)。 ・WebGISのメニュー上で、閲覧したい場所付近のマップと航空写真上に、表示したいハザード情報(地震または洪水)を選択する。 ・地震ハザードについては、WebGISのメニュー上で想定される地震を選択し、閲覧したい場所付近のマップと航空写真上に、断層、想定される震度、液状化の危険度、建物被害のレベル(大破、中破、小破、損傷なし等)と被害額を表示する。建物被害のレベルと被害額は、家屋単位で表示する。これらの情報は、マップと航空写真の2画面上で同時に表示される。 ・洪水ハザードについては、Web GISのメニュー上で想定される洪水確率(50年、100年等)を選択し、閲覧したい場所付近のマップと航空写真上に、洪水危険ゾーンと被害額のレベル(1km2当たり)を表示する。洪水危険ゾーンは、家屋単位で洪水危険度が識別できるレベルで洪水危険ゾーンを表示する。これらの情報は、マップと航空写真の2画面上で同時に表示される。 ・表示した情報をプリントする。	
2	想定地震別に自宅と通勤先の住所を入力すると、マップ上に地震時に帰宅可能なルート候補(帰宅可能性ランク付き)を表示する。	居住者	平常時	自助	地震	災害時帰宅マップ	丁目レベル	自宅	PC、小型携帯情報端末	・インタラクティブ型シミュレーション ・スクロールマップ型アプリケーション	(記述サンプルは割愛)	
3	Webポータル上で、地域の各住宅周辺の危険箇所(土砂崩れの起こりやすい箇所、道路寸断が起こりやすい箇所等)に関するデータを取得し、それをマップアプリケーションで表示する。	住民団体・NPO等	平常時	地域減災(災害対策の準備)	土砂災害	・地域の各住宅周辺の危険箇所(土砂崩れの起こりやすい箇所、道路寸断が起こりやすい箇所等)	個別建物レベル	事務所等	PC	3次元マップアプリケーション	(記述サンプルは割愛)	
4	Web GISを利用して、災害時に地域で救援を受けにくい場所(消防車や救援物資搬送車両が入りにくい場所等)に関する情報を取得し、それらをマップ・航空写真上に表示する。	住民団体・NPO等	平常時	地域減災(災害対策の準備)	地震	救援活動を受けにくい場所(消防車や救援物資搬送車両が入りにくい場所等)等	個別建物レベル	事務所等	PC	WebGIS	(記述サンプルは割愛)	
5	全国の不動産に係る地震被害想定データ(個別建物レベル)を取得し、マップアプリケーション上で編集する。	企業	平常時	業務利用(不動産に関する災害リスク評価支援)	地震	想定地震による土地・建物の被害レベル、被害額	個別建物レベル	オフィス	PC	スクロールマップ型アプリケーション	(記述サンプルは割愛)	
6	Web上で、本社、関連会社、工場、サプライチェーン関連会社等の地域・エリアで起こりやすい災害ハザードに関する情報(個別建物レベル)を取得し、マップアプリケーション上で表示する。	企業	平常時	BCP、緊急時計画等策定支援	地震、洪水、土砂災害、火山、津波	本社、関連会社、工場、サプライチェーン関連会社等の地域・エリアで起こりやすい災害ハザードの種類、大きさ、頻度等	個別建物レベル	オフィス	PC	スクロールマップ型アプリケーション	(記述サンプルは割愛)	
7	ポータルから、本社、自社の関連施設・関連地域の被害想定情報(個別建物レベル)を取得し、マップアプリケーション上で表示する。	企業	平常時	BCP、緊急時計画等策定支援	地震	本社・関連施設・関連地域の被害想定情報(人的被害想定、施設被害想定、資産損失想定等)	個別建物レベル	オフィス	PC	スクロールマップ型アプリケーション	(記述サンプルは割愛)	

付表1 「災害リスク情報の想定される利用シナリオ記述・集積シート(案)」(記述サンプル付)(2/2)

事例番号	利用シナリオ事例(利用場面) (以下は記述例)	災害リスク情報の最終利用者	災害リスク情報の利用時期・タイミング	災害リスク情報の利用目的 (以下は自由記述例)	利用したい災害リスク情報、利用形態等						想定される具体的な利用シナリオ (以下は自由記述例)	コメント等
					対象とする自然災害	利用したい災害リスク情報 (以下は自由記述例)	情報の詳細度、粒度等	災害リスク情報の利用場所	利用する情報端末	災害リスク情報の閲覧・編集等に利用する仕組み・システム		
		付表2「利用者の分類」を参照されたい	付表3「利用時期・タイミングの分類」を参照されたい	付表8「利用者別の“災害リスク情報の利用目的”と“利用したい災害リスク情報”の記述イメージの例(参考)」を参考にされたい	付表4「対象とする自然災害の分類」を参照されたい	付表8「利用者別の“災害リスク情報の利用目的”と“利用したい災害リスク情報”の記述イメージの例(参考)」を参考にされたい	付表5「情報の粒度・詳細度の分類」を参照されたい	付表6「災害リスク情報の利用場所と使用情報端末の分類」を参照されたい	付表7「災害リスク情報の利用媒体の分類」を参照されたい			
8	ポータルから地域の建物の階層、高さ等に関する情報を取得し、マップアプリケーション上で、その情報や津波発生時の地域における避難ルート等を編集表示。津波の避難シミュレーション演習で、避難ルート、避難対象の建物等の適切さ等の判定に利用。	地方公共団体	平常時	業務利用(津波避難シミュレーション演習)	津波	地域における個別建物の高さ、避難ルート	個別建物レベル	事務所等	PC	3次元マップ型アプリケーション	(記述サンプルは割愛)	
9	外出時に付近で洪水警報が出た場合に、自分の小型携帯情報端末にポップアップで避難ゾーンマップが表示される。	居住者	警戒期 応急対応時	自助	洪水	外出エリアで洪水等避難エリアに入っているか否かに関する情報	丁目レベル	外出時	小型携帯情報端末	ポップアップ型アプリケーション	・外出エリアで、洪水注意報、警報が発令された際に、小型携帯情報端末上で、洪水注意報、警報アプリケーションが立ち上がる。 ・当該エリアにおける洪水注意報、警報がメッセージがポップアップし、洪水注意報、警報発令ゾーンを表すマップがポップアップ表示される。	
10	国内の複数地域で、大規模洪水の危険性が迫っている場合に、自社のサプライチェーンへの影響を即時に予測し、それをマップアプリケーションに表示する。	企業	警戒期 応急対応時	BCP、緊急時計画等発動の意思決定	洪水	自社のサプライチェーン(原料・製品搬入ルート等を含む)への影響予測情報	丁目レベル	オフィス	PC	・インタラクティブ型アプリケーション ・スクロールマップ型アプリケーション	(記述サンプルは割愛)	

付表2 災害リスク情報の最終利用者の分類

大分類	小分類
個人・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居住者 ・ 住民団体・NPO等 ・ 移動者・旅行者 ・ その他 ()
企業・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業 ・ 地方公共団体 ・ 中央省庁 ・ その他 ()

付表3 利用時期・タイミングの分類

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常時 ・ 警戒期 ・ 応急対応期 ・ 復旧期 ・ 復興期 |
|---|

付表4 対象とする自然災害の分類

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 地震 ・ 洪水 ・ 土砂災害 ・ 火山 ・ 津波 |
|--|

付表5 情報の粒度・詳細度の分類

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ピンポイントレベル ・ 個別建物レベル ・ 小街区レベル ・ 丁目レベル ・ 町名・大字レベル ・ 市区町村レベル ・ その他 () |
|---|

付表6 災害リスク情報の利用場所と利用情報端末の分類

場所	利用情報端末
自宅	PC、携帯電話、小型携帯情報端末、テレビ、その他（ ）
オフィス	PC、携帯電話、小型携帯情報端末、テレビ、その他（ ）
外出時	モバイルPC、携帯電話、小型携帯情報端末、カーナビ、モバイル・ゲーム機、その他（ ）
その他 （ ）	（ ）

付表7 災害リスク情報の閲覧・編集等に利用する仕組み・システムの分類

種別	媒体
Web アプリケーション	Web GIS、スクロールマップ型アプリケーション、3次元マップ型アプリケーション、インタラクティブ型シミュレーション、ポップアップ型アプリケーション、その他（ ）
Web ページ	テキスト、画像等
電子メール	テキスト、画像等
デジタル放送	地デジ、ワンセグ、その他（ ）
その他	（ ）

付表8 利用者別の「災害リスク情報の利用目的」と「利用したい災害リスク情報」の記述イメージの例（参考）

利用者	利用時期・タイミング	「災害リスク情報の利用目的」の記述イメージ	利用目的に対応する「利用したい災害リスク情報」の記述イメージ
一般住民	平常時	自助	想定される自宅の浸水のレベルと被害額に関する情報
		防災訓練 等	自宅周辺の危険箇所、避難所の位置等に関する情報
	警戒時、応急対応期等	自助 等	地震警報発令情報と避難場所に関する情報 外出エリアで、洪水警報により避難エリアに入っているか否かに関する情報
自主防災組織	平常時	防災訓練 等	地域の危険箇所、避難所の位置、避難ルート等に関する情報
			救援活動を受けにくい場所（消防車や救援物資搬送車両が入りにくい場所等）に関する情報
	警戒時、応	避難誘導等	洪水警報により、地域が避難エリアに入っ

利用者	利用時期・ タイミング	「災害リスク情報 の利用目的」 の記述イメージ	利用目的に対応する「利用したい 災害リスク情報」の記述イメージ
	急対応期等		ているか否かに関する情報
一般企業	平常時	BCP（業務継続計画）等の策定	本社、関連会社、工場、サプライチェーン 関連会社等の地域・エリアで起こりやすい 災害ハザードの種類、大きさ、頻度等に関する 情報
			自社・関連施設・関連地域の被害想定に関する 情報（人的被害想定、施設被害想定、 資産損失想定等）
			原料・製品等搬入・搬送道路ルート）の被害 想定箇所情報
			災害時帰宅困難社員マップに関する情報
警戒時、応 急対応期等	BCP（業務継続計画）等の発動の 意思決定	洪水発生時における、自社・関連施設・関連 地域の緊急被害予測情報（人的被害予測、 施設被害予測、資産損失予測等）等	
		原料・製品等搬入・搬送道路ルート）の被害 箇所に関する緊急予測情報	
企業（災害 リスク情報を 業務で利用する 企業）	平常時	業務利用（不動産に関する災害 リスク評価）	想定地震による、全国の住宅地の地震動、 被害想定等に関する情報
		業務利用（建物 災害リスク格付け）	想定地震による、大都市の個別商業ビルの 被害レベル、被害額のレベル等に関する情報
防災機関 （自治体等）	平常時	業務利用（減災 計画の策定支援）	マルチハザード（多重災害）に対する、地 域の統合的な被害想定に関する情報（人的 被害、建物等被害、経済的影響）
		地域減災（津波 避難シミュレーション演習）	想定津波発生時における、地域別の津波想 定高さ、個別建物の高さ、避難ルート等に関する 情報